

大勝の後の課題

参院選の大局は見えている。自民党の大勝だ。世論調査は、昔は時に外れたが、最近は当たる。小泉自民党が躍進した 2001 年参院選以来、予測報道の大筋が結果とまったく違った例はない。

有権者は経済重視で自民党支持に向かっているが、同時に、経済ほどには関心が払われていない憲法改正に歯車が回り始めていることに、どのくらい気が付いているだろうか。

国際秩序が厳しく流動する中、国全体で自衛を考えなければならぬ局面であることは認める。しかし、安倍総理は勇ましく国防軍などと言うが、軍隊を持つことの意味が本当に分かっているのか疑問である。国民も自衛隊の名称が変わるくらいの安易な気持ちでいいか。

戦争に行くのは常に若者であり、最前線で戦うのも若者たちだ。私はむしろ 50 代、40 代の人間が兵士として戦場に赴くことはない。死んでいくのは私たちの子どもや孫である。自民党大勝のこれからが本当の勝負だ。

現在、日本は人口減少期に突入し毎年 70 万人の人口減少がおり 50 年後は日本の総人口が 8500 万人になると言われている。街から若者が減り労働人口が減少する。増え続ける高齢者を支えるために社会保障費は膨れ上がる。そうなれば経済成長の維持が困難になることは自明の理だ。

しかし、ここまで各党、各候補者の演説を聴いても、社会の在り方そのものを見直そうという話は出で来ない。例えば原発の再稼働である。福島第 1 原発事故で危険さは十分に分かったはずだ。その原発を使ってまで便利な生活にこだわる理由がどこにあるのか。ドアは自動でなくても手で開ければいいし、誰も使わないエスカレーターなど必要ない。福島では炉心はもちろん、汚染水さえ制御できていない。

「廃炉こそ新しい公共事業」と言ったのは田中康夫氏だったが、是非はともかくそのくらいの価値転換が政治家にも国民にも求められてはいないだろうか。次世代に平和で身の丈に合った豊かさを持つ社会を引き継ぐには、時代に抗うことが必要なのかもしれない。

静岡県議会議員
天の一